



平成19年2月発行

# 北海道がんセンターたより

独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター  
〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3-54  
TEL 011-811-9111  
□ホームページ <http://www.sap-cc.org>

編集発行人:山下 幸紀



## 北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康で幸福な生活のため、最新の知識と医療技術をもとに、良質で信頼ある医療の提供に努め、特に「がん克服」に寄与することを目指します。このため、

- 常に、医療の質と技術の向上を目指します。
- 研究、教育研修を推進し、医療・医学の発展に寄与します。
- 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 自主自律、創意工夫の精神で病院運営に当たります。

## 形成外科トピックス



形成外科医長 皆川 英彦

平成13年4月に形成外科の診療を開始してから6年が過ぎようとしています。医長1名、レジデント1名の体制で診療にあたっています。現在は2名とも日本形成外科学会専門医です。手術件数は年間300件前後をおこなってきました。

当院の形成外科の基本方針は、第一には、がん患者さまの外科治療において、形成再建外科手術手技をもちいることにより、機能を温存し、良好な形態の回復をはかり、生活の質の向上を得ることです。担当各科と協力して、治療にあたっています。組織欠損に対して、皮膚や軟部組織、神経、骨などを移植する手術をおこなってきました。

第二に、がんセンターにおける皮膚悪性腫瘍の標準的外科的治療を皮膚科医と共同でおこなうことです。皮膚悪性腫瘍は外科的治療が一次選択となることが多く、皮膚悪性腫瘍の広範囲切除術、センチネルリンパ節生検を併用したリンパ郭清術などをおこなっています。

第三に、整容性に配慮した形成外科一般の疾患について、診療をおこなうことです。手術後の傷あとや変形についての治療などをおこなっています。

す。皮膚良性腫瘍、あざ、血管腫、リンパ管腫、軟部組織腫瘍をできる限り、目立たない傷あとで手術できるようにつとめています。眼瞼下垂症・眼瞼内反症、外傷（挫裂傷、皮膚欠損）、顔面骨折、褥そう、熱傷、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド、先天性耳介変形、唇裂、慢性膿皮症腋臭症、陥入爪など多岐にわたる形成外科的疾患の治療が可能です。がん以外の疾患の治療や相談もおこなっています。

第四に、白石区、厚別区、清田区、豊平区は、形成外科の入院施設が少ない地域ですので、地域の形成外科基幹病院として、関連する病院、医院との連携を保ち、地域医療のニーズにこたえたいと考えております。

第五に、日本形成外科学会教育関連施設として、研修医師の育成につとめ、論文・学会発表活動をおこなっています。

がんセンターの中の形成外科と一般の形成外科の2つを並行して診療を続けていきますので、院内、院外の皆様ともによりしくお願いいたします。

### CONTENTS

形成外科トピックス	形成外科医長 皆川 英彦	1
がん拠点病院としての取り組みをご紹介します	院内がん登録室長（臨床研究部長） 山城 勝重	2～4

# がん拠点病院としての取り組みをご紹介します

● 院内がん登録室長（臨床研究部長） 山城 勝重



## 市民公開講座の中継

（1月13日）

厚生労働省はがん対策事業のひとつとしてがんの研究者に研究助成金の支援を行っています。本年はこの研究成果を多くの国民に知ってもらうことを目的に国立がんセンターで開催された市民公開講座を全国15ヶ所にコンピューターネットワークを利用して中継することになりました。今年のテーマは「正しいがん情報の提供とその利用」です。北海道は当院の大講堂が会場となり、130名以上の方に参加していただきました。患者さまやご家族を対象とした相談室の運営の例などが提示され、市民の皆さんから大きな共感を呼びました。

当院も4月からがん相談支援情報室を開きます。市民の皆さんに正しいがん情報を提供し、患者さまやご家族の疑問やお悩みなどにお応えしていきます。



## 多地点カンファレンス

（2月1日）

私たちの施設は全国のがん専門病院の中でも中核となる病院30施設が組織している全国がん・成人病センター協議会に加盟しています。この中の18施設をコンピューターネットワークで結んで毎週2回専門的な勉強会を開いています。2月1日は当院の婦人科が中心になって子宮体がんの手術治療について勉強しました。子宮体がんの手術治療はリンパ節などの切除範囲については全国の専門病院の間でも意見が異なることがあり、今回のカンファレンスでは各病院の専門医から有益な意見をたくさん聴くことができました。







## がん登録実務者研修

(2月1-2日)

国、地方自治体のがん対策の基本骨格である「がん対策基本法」が本年4月から施行されます。がん診療連携拠点病院では院内がん登録が義務づけられるようになりました。全国7ブロックに分かれて開催されるがん登録実務者研修会が北海道は当院が会場となって開催されました。今回は道内のがん診療連携拠点病院などから診療録管理士の方を中心に35名が講習に参加しました。国立がんセンターから派遣された2名の講師の先生から院内がん登録の始め方から専門的な登録コードのことなど多くのことを学びました。

## がん専門薬剤師研修

がん専門薬剤師の認定は、日本病院薬剤師会が認定した研修施設において3ヶ月間程度の研修と臨床講座を受講し、当会が行う認定試験を受験し、合格後のがん専門薬剤師認定審査を受けることとなります。施設認定は地域がん拠点病院であること、がん専門薬剤師がいることなどの条件があり、当院も認定されています。昨年9月からは道内から2名、秋田県の施設から1名の計3名の研修が終了し、今年1月からは道内から2名が研修にきています。研修内容は、各種がんのレジメン修得、レジメン管理、抗癌剤のミキシング、入院患者さまの薬剤管理指導業務などの実務研修と、各診療科医長による合計31時間の臨床講義を受講しています。



## がん看護研修

(1月15日-2月23日)

厚生労働省はがん診療連携拠点病院機能強化事業の一つとして、がん医療水準均てん化の推進に向けた看護職員資質向上対策を行うことになりました。それを受けて道内の様々の施設からきた9名の研修生が当院でがん看護に関する研修と毎日ハードな研修内容に取り組んでいます。それぞれの研修生が研修成果をもって各施設に反映させていただけるよう研修に携わっている私たちも期待に応えるべく日々努力しております。

## 院内がん登録からみた北海道がんセンターのがん医療 (新たに入院された「がん患者」さま、2006年分の集計)

最初にがんが 発生した臓器	診断・治療 した患者数	再発がん のみ関与
食道	37	4
胃	101	13
結腸・直腸	100	23
肝	28	5
胆嚢・胆管	8	2
膵	14	2
口唇・口腔内	22	4
咽頭	24	6
喉頭	16	3
鼻腔・副鼻腔	8	2
耳下腺・唾液腺	5	1
甲状腺	20	0
肺	317	24
血液・骨髄	35	0
① 悪性リンパ腫/再掲	43	12
皮膚	60	4
乳房	257	27
軟部	49	5
骨	27	1
子宮頸部	89	3
子宮体部	44	4
卵巣・卵管	39	4
前立腺	132	20
腎	33	5
膀胱	40	6
副腎	6	1
脳・脊髄	34	5
② その他	50	2
③ 小児関連/再掲	17	3
総計	1636	188

※①、②、③重複のため、総計とは不一致

左の表は北海道がんセンターで昨年一年間に新たに入院して診断・治療を受けられた「がん患者」さまの数を示しております。この数は院内がん登録に基づいて集計したものです。一部、登録内容を検討中のものは除いておりますので、これらを加えるとおよそ1700名のがん患者さまが入院して診断・治療を受けられたと思われます。この他にも外来のみで診断・治療が終了された患者さま200数十名もおりますので、これらを含めると2000名に迫るだろうと推計されます。

表をご覧になってお分かりの通り、当院のがん医療は全ての臓器から発生するがんを対象としております。胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんなどの日本人に多いがんはもとより、最近増えてきた前立腺がんも多く、発生数は少ないといわれる骨・軟部のがんも多数治療しております。その他、白血病、悪性リンパ腫など血液のがんや、耳鼻科のがん、皮膚科のがん、脳のがん、小児がんの治療も数多く行っております。

さらに、当院は他の病院で治療された後に再発された方の治療も大切に行っております。左の表には出ておりませんが、例えば、放射線科の入院患者さまの半数近くが他の病院で治療終了後に再発され、その治療のために入院されておられます。

その他、当院にいらっしゃるがん患者さまとしてはセカンドオピニオン外来にご相談にいらっしゃる方もおられます。これは保険診療ではなく時間ごとの有料相談ですが、昨年だけでも689名の方がご利用になりました。

院内がん登録は左の表のような資料を作るのに必要なものです。当院ではこのような情報を市民のみなさん、患者さまに正しく提供すべく一昨年より院内がん登録室を開設しております。このような活動を他のがん診療連携拠点病院の仲間とともに押し進め、さらに地域の病院への波及も図っていきたくと考えております。